

泊駅の南北をつなぐ自由通路に関するパブリックコメント結果（提出意見の詳細）

「泊駅の南北をつなぐ自由通路」に係るパブリックコメントを、令和7年9月16日から10月17日までの期間で実施し、11人の方からご意見をいただきました。ご意見につきましては、本事業を進める中で参考とさせていただきながら、引き続き、協議・検討を重ねていきたいと考えております。なお、ご意見につきましては次のとおりとなります。

区分	意見の概要
自由通路・駅前広場の整備デザインについて：10件	泊駅自由通路の件、拝見しました。 通路と改札機と階段の距離が短すぎるのではないかと思います。普段はこれで充分かもしれませんが、繁忙期では捌ききれないかもしれません。 工期と予算がかかりますが橋上駅っぽくするか、階段を降りたホーム上で改札業務をするのも有りかもしれません。 現状では糸魚川方面はICカードに対応していないため、ホーム上でICカード入場出場処理ができた方が便利だと思います。発着本数の少ない1番線の存在意義もあるのか疑問です。 1910年の富直線一部開業のターミナル駅となった泊駅には、転車台があり、補給用のサイロがあった。東海道線経由で当時の起点駅新橋までの直通編成があった。あいの風とともにサイロは消え、転車台の一部が名残を残している。今またターミナルとしての役割をもっているのもいづれか感慨がある。そうした駅の歴史をいくらか反映することで、これまでの流れのなかにあるいと、これからが描ける。人、もの、こと、場所、時間の架け橋にふさわしいデザインを期待します。 四重奏やヒスイ海岸もいけれど、朝日音頭に謳われたように、東に白馬、南に劔岳、西に加賀の白山、そして、北に有磯海と、景観の十字路に位置することをもっと強調していいと思う。特に、白山が望めるなんてほとんど知られていないのではないのか。北はいまや能登、珠洲という言い方でもいい。座標の遠近もまた大切な風景だ。 泊駅は1910年に北陸本線の終着駅として開業し、後に急行「白山号」や特急「北越」など数々のJR列車が停車してきた歴史ある駅です。現在もあいの風とやま鉄道とえちごトキめき鉄道の結節点であり、鉄道史や地域の発展と深く関わってきました。こうした背景をデザインに反映し、「町の玄関口」「鉄道の終点駅」としての誇りを感じられる空間にしていきたいです。 ・終着駅を象徴するモニュメントやフォトスポットの設置 ・車両折り返しを眺められる展望スペースや鉄道の歴史を紹介する小展示 ・自由通路や広場を「町民ギャラリー」として活用し、学生・アーティストの作品や泊駅の歴史写真、JR車両が停車した記録などを展示 ・四重奏や立山連峰をモチーフにした装飾や照明で季節ごとに町の魅力を表現 ・雪国に配慮した風除室・暖房付きベンチなど快適に利用できるデザイン 駅舎のバリアフリーはいち早くお願いします。今、医大に通っています。2番線階段の昇降に10分かかります。手すりだけでは不安定で何度も落ちそうになりました。無理は言いませんができるだけ早い着工をお願いします。 駅南開発もあり自由通路の整備は賛同しますが、将来のメンテナンス費用も考慮してください。過疎化する財政は縮小していきます。できるだけ負の財産を残さないようにしてください。 キッチンカーを運営しております。人が集まれるような駅口でのイベントが行われやすいよう電気が利用できると露店やキッチンカーも数台集まれるので良いと思います。また、そのような広場になると町外からの人の往来が見込めるのではないかと思います。

エレベーターの設置や管理を考えると、踏切を作る方が車も通れるしいいのでは。 ①自由通路について：全体的に、圧迫感のない壁の色や材質を希望します。例えば、全面ガラス張りで電車が見えると開放感があって嬉しいです。ガラス面に直接ヒスイ海岸をイメージした波のデザインがプリントされれば、海の中を電車が走っていくように見えて素敵なのではないと思います。全面ガラスでない場合は、朝日町らしいイラストを壁から突出した透明な盤面にデザインするのはどうでしょうか。（イラスト例1：「町制施行40周年記念」で制作された漫画本「朝日町のあゆみ」の絵を抜粋する。イラスト例2：「旅するあさひ（観光パンフレット）」表紙デザインのような町のモチーフを散りばめる。） ②自由通路・駅前広場について：通路や階段の床、または駅前広場（歩道）に海のデザインが広がっていたり、ところどころにヒスイや色とりどりの石ころの絵が散りばめられていたら可愛いと思います。 立山、朝日岳、らいちょう、チューリップ、ヒスイ、たら汁、ちごまい。 チューリップが描かれている壁があるといい。 柵などを設置するのであればビーチボールなどのデザインもいい。 ヒスイ太郎を取り入れてほしい。
自由通路・駅前広場の活用：7件 泊は400年の歴史を持つ宿場町。 律令時代の国の東西を分ける神斎に位置せらる場所に計画的に作られた。新川木綿の集積地でもあり、東西を隔てる親不知を越えるための船の発着地でもあった。港のない港町であった。そうした町の風土を伝える活用はないものか。新道である五叉路とのつながりをうまく活かしたアイデアを望みたい。 自由通路内に電車を眺めながら休憩出来るスペースを設けてほしい。 泊駅を、町民と観光客が自然に集まり交流できる拠点とするために、活用方法にも工夫を希望します。 ・駅前広場にキッチンカーやマルシェが開けるスペースを整備し、にぎわいを創出 ・小規模カフェや休憩所を設け、電車利用者や町民が集まる交流拠点に 季節ごとのイベント（春の四重奏ライトアップ、夏祭りや七夕、冬のイルミネーション）を開催できる場として活用 ・観光案内所やレンタサイクル拠点を整え、泊駅から町内観光へつながる導線を確立 このように、泊駅の持つ歴史や鉄道の終点駅としての特性をデザインや活用に生かすことで、町の誇りを感じられる「人が集まる玄関口」になると考えます。 町内観光案内の看板設置。 HPに例として記載のあった、アートギャラリー活用や駅南の駐輪場・駐車場整備に賛同します。また、名産品や郷土資料が、常設展示またはシーズン毎に入れ替え展示されていても素敵だと思います。（小窓のような展示スペースを画家・書道家・陶芸家等に有料で貸出すのも面白そうです。利用がない期間は町所有の品を置くイメージです。）駅前広場にベンチを設置する場合は、上屋と自販機もセットだと嬉しいです。完成した暁には、先行見学会などであると楽しそうだと感じます。 バタバタ茶を飲めたり、みそかんぱを食べれたり、勉強ができる休憩スペースがほしい。 ボタンをおしたら色々な音が聞こえる（海（ヒスイ海岸）、風、鳥の鳴き声等）。 勉強できるスペースがほしい。 購買みたいなおやつとした食べ物を売ってほしい。 休憩スペースがほしい。